

## 令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号 11 学校名 各務原高等学校

社会的役割等 (スクール・ミッション)	文武両道を実践し、総合的な人間力を培う高校として校訓「開拓者精神（創造・挑戦・協同）」のもと、地域社会と連携・協働した教育活動を通して知・徳・体の調和のとれた人間性を身に付けた、地域の核となる人材の育成を目指す学校				
学校教育目標 (教育方針)	(1) 知育・德育・体育の調和のとれた生徒を育成する。 (2) 基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、向上心があり、知性を備えた生徒を育成する。 (3) 個性豊かで、自己を律するとともに、自他をかけがえのない存在として認識し、協調性のある生徒を育成する。 (4) 心身ともに健康な体の基礎をつくり、生涯健康で健やかな生活が送れる生徒を育成する。				
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、向上心や挑戦心をもつ、知性と創造性を備えた生徒</li> <li>豊かな個性をもち、自己を律することができるとともに、自らや他者をかけがえのない存在として認識し、協調性や協同性とたくましさを備えた生徒</li> <li>自己の在り方生き方を考え、地域社会や国際社会の一員として活躍することができる見識と行動力を備えた生徒</li> </ul>			
	生徒をどう育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の向上を図るために、習熟度別や少人数による指導、I C T等を活用した指導など個々に応じた「わかる」授業の実施</li> <li>多様な進路志望に応じた、進路希望別クラス編成（特進クラスなど）、国際交流推進、部活動活性化（エキスパートクラブ）、高大連携等を包括したカリキュラムの編成と実施</li> <li>多様な価値観、課題解決、コミュニケーションを重視した総合的な探究の時間や生徒会行事、地域の人材資源を有効に活用した地域活動の実施</li> </ul>			
	どんな生徒を待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な探究心と実践への意欲をもち、高い志を掲げて積極的に学習活動に取り組む生徒</li> <li>真摯な態度で自己を律することができ、思いやりの精神と仲間とともに切磋琢磨できる気概をもった生徒</li> <li>地域に愛着をもち、他者と協調し、協働しながら、社会に貢献しようとする意欲のある生徒</li> </ul>			
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に主体的に取り組む姿勢が十分に身に付いていない生徒に対し、家庭での学習習慣も含めて学習姿勢を身に付けさせていくことが必要である。</li> <li>人間関係の構築がうまくできない生徒や、他者に不信感をもつ生徒が存在する中で、良好な人間関係作りをするための取組を計画的に行う必要がある。</li> <li>将来への展望が不十分なまま受験を迎える生徒に対して、早期に明確な進路意識をもたせるために計画的にキャリア教育を実施し、自ら考え自己表現する力を育成する必要がある。</li> <li>自分自身に自信がもてない生徒について、行事や生徒会活動等を通して達成感や自信をもたせ自己肯定感を高めると共に、自主性や協調性を育成することが求められる。</li> <li>地域と連携した「総合的な探究の時間」の取組と教科の学習及び進路指導との効果的な融合を図る必要がある。</li> </ul>				
領域・分野	今年度の具体的な重点目標				
教育指導の重点	学習指導	学力の向上【学習に対する意欲を喚起し、自ら学ぶ態度を育成する。】			
	生徒指導	人間性の向上【秩序ある教育環境をつくり、他者の考えを尊重しつつ、自ら考え行動する自律の精神を養う。】			
	特別活動	体力の向上【心身の調和的発達を図る基礎作りを充実する。】			
	学校経営	働き方改革の推進			

年 度 目 標				年 度 末 評 価 (自 己 評 価)			
領域 分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果 (○) と課題 (▲)	総合評価 A. B. C. D
学習指導	生徒の基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するための教科指導となるよう、授業改善・校内研修を組織的・計画的に推進する。	施策 II-8	①授業改善に向け、授業評価、授業研究・校内研修が効果的に行われたか。 ②主体的・対話的で深い学びを展開することで、生徒の生きる力を向上させることができたか。 ③地域の産業界や関係機関等と連携し、地域課題を発見・解決する学習を促進することができたか。	①授業研究が効果的に実践され、生徒の実態把握を確実に実施し、生徒の実態に合った授業づくりをすることができた。それにより多くの生徒から、授業内容が理解できたと評価を得た。 ②授業の内容に応じて積極的に対話的な学びの場を設定した。仲間とを考えを交流することで、学習内容に対し理解や思考を深めることができた。 ③「ふるさと教育」において市役所に加えて図書館や子ども食堂等と連携を図り、地域課題について探究できた。	B	○生徒自ら仲間と交流を図る姿が見られ、学習内容について理解を深めた。また、それが模擬試験の結果につながった。 ○学習に主体的に取り組む姿勢が見られ、生徒の授業に対する満足度が高まった。 ○地域課題を自分事として捉えられる生徒が増えてきた。 ▲家庭学習時間の増加にはつながっておらず、学習内容の定着に弱さが見られる。 ▲学んだ内容を活用する力を身に付けさせる取組が必要である。 ▲ふるさと教育において、一人でも多くの生徒が充実して活動できるようなシステムを構築していく。	B
	科学への探究心と論理的思考力を育成するとともに、社会感覚やコミュニケーションへの意識を向上させる。	施策 II-10	②生徒のニーズや願いを大切にすることで、生徒の生きる力を向上させることができたか。				
	各教科で読む力、書く力、聞く力、話す力を統合的に高める教育を行い、実践的なコミュニケーション能力を高める。	施策 II-11	③地域の産業界や関係機関等と連携し、地域課題を発見・解決する学習を促進することができたか。				
	「ふるさと教育」に積極的に取り組む。地域資源を活用し、地域との交流を深め、地域課題を発見・解決する学習を推進する。	施策 II-13	④「ふるさと教育」において市役所に加えて図書館や子ども食堂等と連携を図り、地域課題について探究できた。				
生徒指導	あらゆる機会を通して、自他の生命・人格を尊重し、危険を未然に防ぐ能力を育てる。	施策 I-2	①生徒が自他の生命や人格を尊重できるようになり、学校生活やいじめ・人間関係のトラブルの状況が改善されたか。	①薬物乱用防止講話等を通して、自ら大切にすることを養うと同時に、相手に対する思いやりの気持ちを醸成する様々な取組を実施した。また、生徒や発生事案に関する情報共有を迅速、かつ積極的にを行い、トラブルが大きくなる前に組織で対応することができた。 ②場面を捉え、学校におけるルールを順守することの大切さを集会や全校放送等を利用して伝えた。それにより、落ちていた雰囲気を学校全体につくり出すことができた。	B	○遅刻指導を継続的に実施することで、遅刻者が前年比74%（12月現在734名）となっており、年々減少傾向にある。遅刻をしない雰囲気はもちろんのこと、時間に対する自己管理意識の向上が効果として現れている。 ▲生徒の規範意識は少しずつ向上しているものの、軽率な言動が要因とされる生徒指導事案が発生している。今後も一人一人の生徒の実態や特性に応じた、丁寧な指導が求められる。	B
	すべての教育活動において主権者教育・消費者教育を推進する。	施策 II-12	②生徒のニーズや願いを大切にすることで、意欲的に学びが構築できるようになつたか。				
	落ちついた雰囲気の中で学習ができるよう、学習環境を整備する。	施策 III-19	③生徒のニーズや願いを大切にし、各部の状況に応じた部活動を実施し、生徒の主体性や協調性を育むことができたか。				
	全職員で「挨拶、身だしなみ・遅刻防止指導、清掃」に取り組み、生徒の規範意識を向上させる。	施策 I-1	④部活動では生徒の願いを大切にした活動を展開することで、生徒が協調性を育みながら主体的に活動することができた。				
特別活動	新生祭等の学校行事を生徒主体で運営し、自主性・自立性・協調性を養う。	施策 IV-20	①生徒が主体的に関わる学校行事を実施し、達成感を存分に味わわせるとともに、自主性や協調性を養うことができたか。	①生徒会活動を活性化し、文化祭やスポーツ大会等で全校生徒からの意見を取り入れ、企画運営することができた。特に文化祭では、3年ぶりにクラスTシャツを作成し、全校で披露し合うことができた。また、スポーツ大会では、種目の見直しを行い、リレーを取り入れたことで全校生徒が一つになり盛り上がることができた。 ②部活動では生徒の願いを大切にした活動を展開することで、生徒が協調性を育みながら主体的に活動することができた。	A	○文化祭とスポーツ大会終了後に実施したアンケートでは、90%以上の生徒から満足したとの結果が得られた。 ○各部活動において生徒と共に活動内容や方法を工夫することで、多くの生徒が満足感や達成感を感じている。 ▲文化祭のクラス企画について、生徒会が主体となりステージ発表やクラス展示などの質を高める工夫を考えていく。 ▲学校行事に保護者や地域住民にも参加できる開かれた学校づくりを目指し、実施方法等について継続的に検討を進める。	B
	心身とも健康な体づくりを行い、たくましさ、自己管理能力の育成を図る。	施策 III-16	②生徒のニーズや願いを大切にし、各部の状況に応じた部活動を実施し、生徒の主体性や協調性を育むことができたか。				
	生徒のニーズや願いを大切にした部活動を実施し、活動を通して主体性や協調性を育む。	施策 IV-25	③生徒のニーズや願いを大切にし、各部の状況に応じた部活動を実施し、生徒の主体性や協調性を育むことができたか。				
	長時間勤務と多忙化の解消に向け、業務内容の不断の見直しを行う。	施策 IV-27	①業務内容を精選することで、学校の抱える仕事を軽減することができたか。				
学校経営	ハラスメントとメンタル不調を速やかに察知し、解決を図る。	施策 IV-28	②長時間勤務をする職員または全体の時間外在校時間が減少したか。 ③ハラスメントやメンタル不調の職員に対して迅速に配慮した対応ができたか。	①会議を精選・工夫して位置付け、放課後の時間を確保し、現状において可能な限り職員が自由に使える時間を確保した。 ②時間外等在校時間については、4月から12月までの比較で、R5年度合計11103:13 R6年度合計10497:20、R7年度合計9264:55と、年々減少している。 ③ハラスメント防止研修を年2回実施し、啓発を行った。またストレスチェックの結果を丁寧に分析し、職員への個別の聞き取りや声掛け、その後の丁寧な見届けを実施した。	B	○職員が自らの働き方を考え、自己研鑽や授業準備に費やしたり、年休の積極的な取得につなげたりすることができた。 ▲長時間時間外勤務をしている職員の状況改善のためには、部活動指導の在り方の見直しと、更なる業務の精選を進めていく必要があるが、学校に求められる業務自体は同量のため、難しい状況にある。 ▲メンタル不調、ハラスメントの防止の観点から、効果的な研修を適時実施することで、風通しのよい職場の雰囲気づくりと環境整備に努めていく必要がある。	B

来年度に向けての改善方策等	実施日：令和8年1月9日	学校関係者評価	実施日：令和8年1月27日
<p>・今年度の学校評価において「学校生活（学習や部活動、仲間関係等）に満足している」について、肯定的回答の生徒が91%、保護者が90%となっており、9割以上の生徒が学校生活に満足していることが明らかとなった。こうした高い評価の背景には、分かりやすく確かな学力を育成する授業、地域連携を基盤とした体験重視型の総合的な探究の時間の設定、生徒一人一人の思いや願いに寄り添う教育相談や進路指導、規範意識を醸成し、いじめを許さない風土を培う生徒指導、生徒の帰属意識や充実感、達成感、自己肯定感を存分に高める特別活動等、常に本校の生徒を第一に考えた取組があると考える。次年度においても、本校の教育目標及びスクールポリシー、スクール・ミッションの具現に向け、各分掌においてPDCAサイクルを大切に、工夫・改善を加えながら各種取組を継続していくたい。</p> <p>・次年度より新1年生の個人タブレット端末利用がスタートすることも含め、ICT機器をより効果的に活用した授業の展開を目指し、学校全体の課題として検討を深めていく。</p> <p>・保護者、地域と共にある学校として教育公開の機会を充実させると共に、ホームページや「すぐーる」を活用し、学校からの情報発信を丁寧に行うことで、本校の教育活動や生徒の様子を知っていただき、家庭や地域での話題につなげていただけるよう努める。</p>	<p>・生徒の姿が非常に落ち着いており、どの生徒も意欲的に学習や行事に取り組んでいる。学校全体がとてもよい雰囲気である。教職員も熱心に教育活動に取り組んでいる。</p> <p>・教育目標具現に向け、スクール・ポリシーに基づき取組が行われており、それが生徒のよい姿となって現れている。今後はさらに、各取組（カリキュラム・ポリシー）と成果（グラデュエーション・ポリシー）の関係性を明確にし、整理していくとよい。</p> <p>・横断的視点をもち、各分掌間の連携を図り教育活動を展開していくたい。</p> <p>・「ふるさと教育」に熱心に取り組んでおり、生徒が確かな力を身に付けていている。今後さらに、学校外での活動を充実させるためには、地域連携を支える人的資源の確保が課題となる。一案として、同窓会ネットワークを活用して、モデル事業を立ち上げてみることを検討されたい。</p> <p>・学校運営協議会に、同窓会メンバーからの参画を検討するといよい。</p> <p>・学校の魅力を発信する手段として、ホームページの活用は勿論のこと、地域性を打ち出すことで新聞記事に学校の取組が掲載されるよう、積極的に働きかけを行っていくとよい。</p> <p>・素晴らしい図書館を保有する学校であるので、ぜひ図書館利用促進に向け取組を充実させたい。</p>		